

沸騰！ロスアンジェルス

12月、大谷翔平が、FA制を使ってロスアンジェルス・ドジャースに移籍した。エンジェルスにいたころから「ロスアンジェルスの街を変えた男」と呼ばれていたが、あんな片田舎でさえそうだった。今度は大都市のど真ん中である。ロスアンジェルスの街が、契約したことが公になった日から、まだドジャースのユニフォームを着て試合をしたこともなければ、打撃練習をしたわけでもないのに、大谷、大谷の大合唱である。まさに **Shouhei bubble** である。……これには、大きく分けて2つの理由がある。

ひとつは、ドジャースが大谷に目をつけたのが彼が高校1年生の時である。このときから、ドジャースは(投手として)狙っていたのである。高校卒業の際、大谷は、いきなりMLBを目指すということを公言した。(ボクは、個人的には反対だった。なぜならAAAやAAの選手の待遇がひどすぎるから。)ところが、日本ハムがドラフト会議で強行指名を敢然とやらかした。当初は、大谷も相手にしなかったのだが、栗山監督に説得されて、投打二刀流で日本のプロ野球に残ることになり、ドジャースはお預けを食った形になった。さらに、二刀流が進むなら、ドジャースには入れない。DH制がなかったからである。……結局(プーホルズやトラウトがいる)エンジェルスに入団した。そして入団して4年目に投打双方で大活躍をし、満票でのMVPに輝いた。(念のため、イチローも最多安打を記録したのが4年目である。)で、ドジャースは虎視眈々とFA制を待った。幸い、前年度からナ・リーグでもDH制がとられるようになった。2023年は、WBCの大活躍もあり、再び満票でMVPに選ばれた。こんな有能な選手を見逃す手はない。

ここにふたつ目のチャンスが出現した。投手でも打者でもドジャースにはチャンスが巡ってきたのである。14年越しの念願である。誠心誠意、二刀流(Tow way player)を継続することを条件に大谷を説得した。交渉人のネズ・バレロには、自らの意地もあるし、これほどの大物の交渉である、生涯に一度あるかないか。所属する事務所の面子もあるし、失敗すれば存続の危機でもある。入念に大谷と策を練り、信じられない巨額の契約金(北米四大プロリーグの中で群を抜いて最高の7億ドル)で、ドジャースとの交渉に成功した。特筆すべきは、年俸の97%を引退後に支払う、しかも無利子である。エンジェルスのオーナーとGMがバカだったから、すんなりとドジャース入団が決定した。

大谷が爆発するまで、MLB最高の打者はトラウトだと思われていた。トラウトの契約額は4億数千万ドルである。これを超えるかどうか焦点になっていたらしい。FAだから、多少は高くなるだろう、と評論家たちも思っていた。だから、5億ドルか少し超える程度と考えていたらしい。

北米の四大スポーツでの最高額は、NFLの5億3000万ドル。そのため、評論家たちも5億2000万ドルくらいと思っていたらしい。蓋を開けると、5億の壁を超えて6億ドルどころか、7億ドル(当時の為替レートで1015億円)。サッカーも含めたスポーツ史上最大の契約金である。誰もがペイしない(回収できない)だろうと考えていた。それよりも、巨額

さが世界中のスポーツ関係者の度肝を抜いた。そして、野球が盛んではないヨーロッパやアメリカ、アフリカなどでも、野球の説明から始め、大々的に取り上げざるを得なかった。

ところがあの喧噪である。……これなら2~3年でペイするのではないか、と思わせるほどのフィーバーである。……7億ドルは、世界でも大谷だけで、メッシの6億数千万ドルを凌駕している。これには、さすがにヨーロッパのようなサッカー中心、せいぜいラグビーくらいのプレーしか見ないマスメディアも反応せざるを得ない。挙って、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、オランダ、ベルギー、そしてチェコが報道する。

最初は、ケリー投手の背番号17のユニフォームを奥さんが庭に捨てることから始まった。そして99に変えさせた。そのお礼が、大谷自身がアンバサダーをしているポルシェ。2600万円以上。つまり17万ドル以上。(背番号を譲ってもらった時のお礼は成文化されていないが、常識らしい。高級時計などだが、それでも1万ドルを超えない程度らしい。)

それ以降、ロスアンジェルス街は、異常なバブル状態になってきた。**MLBを大谷翔平一色に染めてしまった**。さらに、年俸の支払いも引退後にほとんどをまわして、新たな選手の獲得を率先して目指してきた。大谷の勝利への執念である。山本由伸投手を獲得してくれと要求し、ヤンキースとのデッドヒートで、当初は、2億2500万ドルと巷間囁かれていたのを1億上積みして、獲得した。ヤンキースにはコール投手がいる。この投手を超える額は出せない。結局、ドジャースに入団した。その他、他チームで昨年10勝した投手の獲得やスラッガーの獲得にも一役からんでいる。**そして、ドジャースの本拠地ロスアンジェルスも狂瀾することになる。**

大谷のユニフォームの売れ行きが、ムーキー・ベッツのときよりも凄まじい、と売店の人が言う。他の選手全部を合わせても大谷一人の方が多いいという。さらに、従来もっとも売っていたロナウドやメッシをはるかに上回る早さと数で、48時間で売り切れの状態、予約制にしなければ・・ともいう。予約したら、夏になるらしい。電話が一時不通になったという。その他のグッズも売れ行きが好調で、たとえば、初登板のマウンドの土など、あるいは、初打席のバッテリーボックスの土まで売れる。(翻って、エンジェルスグッズ発売の売店は、人ひとりいない。)

ドジャースの本拠地の初戦のチケットの急激な高騰である。今やプラチナチケットになっている。最低でも55000円とっていたものが、いつの間にか14万円になっていた。ネット裏の特等席は141万円。これは2枚一組だから280万円になる。立見席でさえ去年の3倍という。……もっと上がるかも知れない。……以下に述べることも、ドジャースが大谷をチームのアイコンにしたためである。

全国放映のTV放送、球場のTVに写りやすい場所の広告看板が、日本企業からの問合せで電話が鳴りっぱなし。TV放映数も、前年の1.5倍に増加させる。この看板1枚でも1試合100~200万ドル、年間81試合だと8100万ドル~1億6200万ドル。……逆にエンジェルスは、大谷の要求に答えることなく、みすみす手放してしまった。そもそも、大谷が入団したときのGMは、メッツに行ってしまう。今のGMには、恩を感じる必要

もない。Trout がいたから、できるだけ Angels に残ろうとただけのこと。勝てなければ、また勝ちたい意欲が感じ取れないから Dodgers に移籍しただけのこと。Dodgers もまた、それによく答えた。

大谷個人の CM も、たとえばコスメデコルテは、前年より 7.5 倍（2 月には 13 倍）もの売り上げ増。雪肌精も 40 数%の売り上げ増。CM やアンバサダー契約は 10 以上あり、その株価も上昇する。

日本全国の小学校にグローブを寄付した、「野球をやろうぜ！」 左利き用のグローブを右利き用 2 つに加えた。その心遣いが、また評判を産む。（もし、なくなったり、転売したりする者ができれば、それは、学校の教師である。詳細は書かないが。）・・・ニューバランスは、グローブだけでなく、スニーカーやトレーナーや、いろいろなスポーツ用品を扱っている会社だから、その宣伝効果は莫大である。契約金（一説に 40 億円）をすでに凌駕しているだろう。

セイコーにしたって、ローレックスのようなけばけばしい物よりも穏やかな心が和むような物を身に着ける。いわゆる成金主義ではない、ということである。

飼い犬まで VIP 扱い。名前がデコピンには笑ったが。・・・このペースなら、CM 出演もあるんじゃないか、とも思える。

ロスアンジェルス我真ん中に大谷の壁画が描かれる。SHOU-TIME と書いてある。

例によって関西大学の宮本先生が経済効果を計算すれば、643 億円以上だという。阪神の優勝どころか、さらに上の経済効果が得られているという。すべて大谷個人の入団のお蔭である。・・・そして、すべて入団発表以来、わずか 1 か月の話である。

そして最も重要なことなのだが、野球を知らないヨーロッパや南米の、野球のルールさえおぼつかない人々まで席卷していることである。史上最高の 7 億ドルと聞いて、さすがに欧州でも特集を組まなければならなかった。しかし、1 か月経過して、球団もまさかここのまでのフィーバーは予測していなかっただろう。そう思えば、7 億ドルも、安い買い物だった。10 億ドルでもよかったのではないか。

大谷は、もはや Michel Jordan に匹敵すると言われるようになった。プライベート・ジェットするとき、ジョーダンを思い出したが、Jordan は、シカゴ・ブルズに所属、NBA を背負っていた選手である。この選手に匹敵するなら、大谷は、MLB を背負って立っていると判断されたのである。

Greg Maddux 投手、Reggie Jackson、Derek Jeter など往年の名プレイヤーたちにも話しかけられたり、握手やハグを求められる。Alex Rodriguez、David Ortiz の質問には、2 人が、椅子をひっくりかえして、転げまわって喜んだ。大谷も敬意を表して、きちんと応対する。人たらしの最たるもの。

大谷が一平さんと NFL のロスアンジェルス・ラムズの試合に招待された。カメラに抜かれて、スクリーンに大谷が大写しになると、観客がどよめき、大歓声になった。初めは顔を隠すようにしていたが、次に上着のボタンをはずし、17 のシャツをみせて、挨拶した。試合前にグラウンドに降りると、エース・レシーバーの選手が握手を求めてきて、観衆が「フットボールに来てくれ」と大喝采。試合後、選手たちのロッカールームを訪れ、握手したり、ハグをしたり歓迎された。QB の選手が言うには、「大谷って大きいんだね」……防具で覆われているが、実際に相手と直接コンタクトする選手ばかりの中で、大谷の身体はひけをとらなかったということになる。均整の取れた体格にも驚いたらしい。

日本の能登半島で大地震と津波があり、行方不明の方も多し。ドジャースは、大谷と連名で 100 万ドルを義捐金として送った、と発表された。大谷個人は額をいわないが、相応の金額と見舞いの言葉を送った。……これも、普段からおこなっていることがあるから、いい意味で報道される。東日本大震災のとき、松井が 5000 万円、イチローが 1 億円の義捐金を送った。スポーツ面のべた記事にしかならなかったけれども。その他の選手も 1000 万円を、水害被災などに寄付している。

どうも大谷の話を書いていると、金銭感覚が麻痺しそうで、1 億円かあ？ ウン、すぐだせるけど……われわれの 1 万円どころか 1000 円程度の感覚なのではないか。大谷の一挙手一投足、一言一句に野球ファンが注目し 騒ぎ立てる。あくびをただけでも話題になるんじゃないか？

2024.01.15.

その後も、KONAMI の野球ゲームのアンバサダー料が 70 億円という。それが発表された翌日の株価が一気に 500 円あがったというから、70 億円を 1 日で回収できた。それほど大谷効果が大きいということだろう。

MVP の夕食会のあと、インタビューをうけていたが、椅子が小さくて「かしこまって座っている」ような画像でさえ騒ぎになる。

とどめが、大谷の結婚である。清楚で、笑顔がきれいな品のあるスポーツウーマンである。この女性をネット民が探し出したが、その早いこと。……これでは、秘密保持も何もあったものではないが、逆に、これだけ世界中が「監視」しているのに、自ら報告するまで誰も気付かず、噂も流れなかったのは、彼女の賢さやチームメイトらがチャラチャラしていなかったことによる。

このようなバブルについて、ボクの記憶にはないだろうと思っている。あったとしても、ごく一部が燥いでただけで、ビートルズなど（ボクは全く興味がなかった）一部の若者には衝撃だったらしいが、実際に大きな国民運動にはならなかったし、経済効果もたいしたことはない。バブル期にしても、騒いでいたのは、一部の欲に目がくらんだ連中だけで、今や

跡形もない騒ぎで、「バブルを思い出して、あの頃は何してもよかった」くらいのもので、国全体が騒ぐようなことではなかった。老若男女すべてを巻き込むだけのものではなかった。あれで怪しくなった連中の、たとえば倒産しかけた銀行などを税金で救うなどとバカげた話ばかりで、不公平感は否めない。

戦後は価値観がひっくり返って混乱しただけのこと。幕末も、日本が危うい、と一部の人が大騒ぎして、結局、最小限の戦争で終結し、明治維新で、ほとんど無血革命になった。

まったくの私見であるが、国民全体、老若男女を巻き込んで、一大国民運動に至ったものは、僕はみたわけでもないし、その雰囲気にも触れたこともないのだが、明治の末から大正、昭和初期にかけて 20 年余で国民を動かし、瞬く間に信者 800 万人を得て我が世の春を謳歌し、二度にわたる官憲の弾圧を乗り越えた「**大本**」の教勢があてはまるのではないか、と思っている。信者にしても教祖や教主なども、贅沢をするでなし、一汁一菜、しかもお粥というよりも重湯のような食べ物にも不平を述べず、一致団結して世の立て替え・立て直し（説明は別に書きます）を信じた素朴な人間たちの蠢きに感動すら覚えるひたむきさが、（なかには、自らが救われようとする者もいたが、多くは日本人そのものを救出しようとした人々の運動そのものが）今のバブルと、つねにダブって見える。　　今どきの新興宗教のように、教主とその取り巻きたちだけが恩恵を被るような宗教ではない。この頃のメディアは、質の悪いラヂオか新聞くらいしかない。教祖亡きあと、教主（のちに聖師）出口王仁三郎の一挙手一投足、一言一句が、新聞の一面を飾る。　　詳しくは、次回に書くつもりです。

2024.03.07.